



イーレックス株式会社[9517]

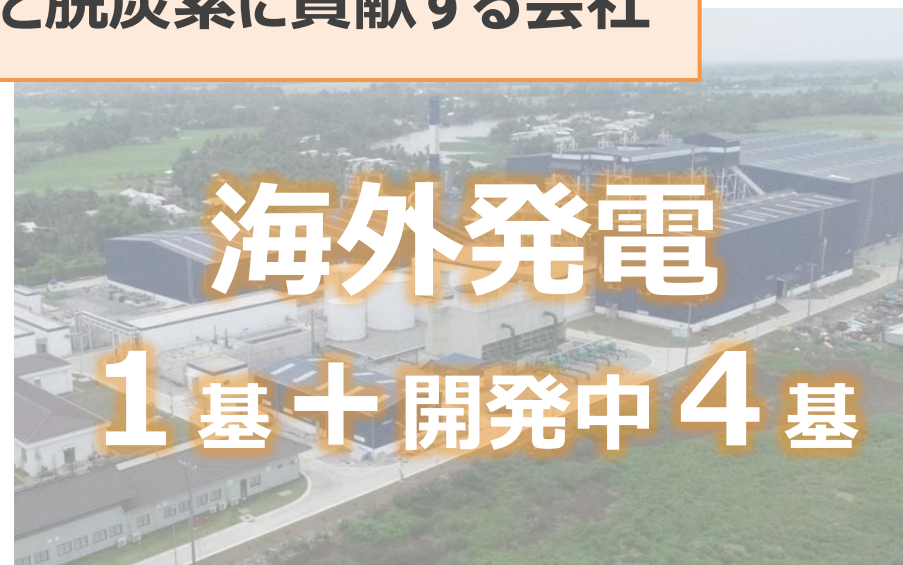
再生可能エネルギーをコアに
電力新時代の先駆者になる

□グミーIR Meet 2026夏

「AI需要拡大による電力不足で変わる電力ビジネスの最前線」



AI時代の電力不足解消と脱炭素に貢献する会社



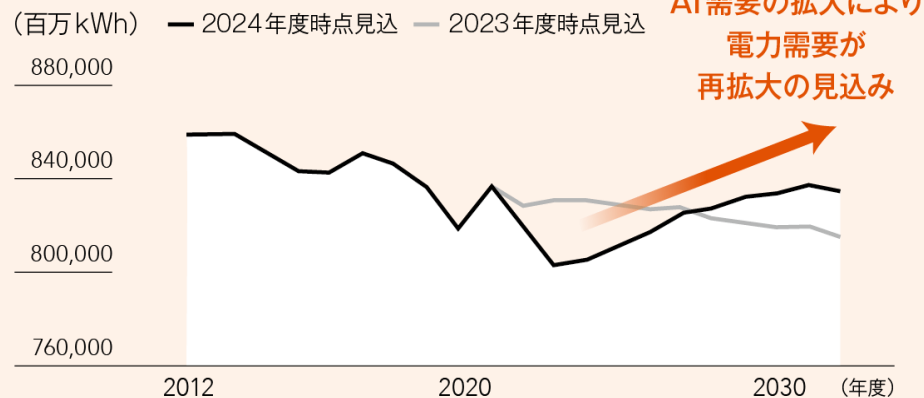
日本の電力市場 = 20兆円 + α

AI・データセンター増
電力需要増

安定した
再エネ電源が
必要

供給力(電源)不足
世界的な脱炭素

日本の電力需要想定

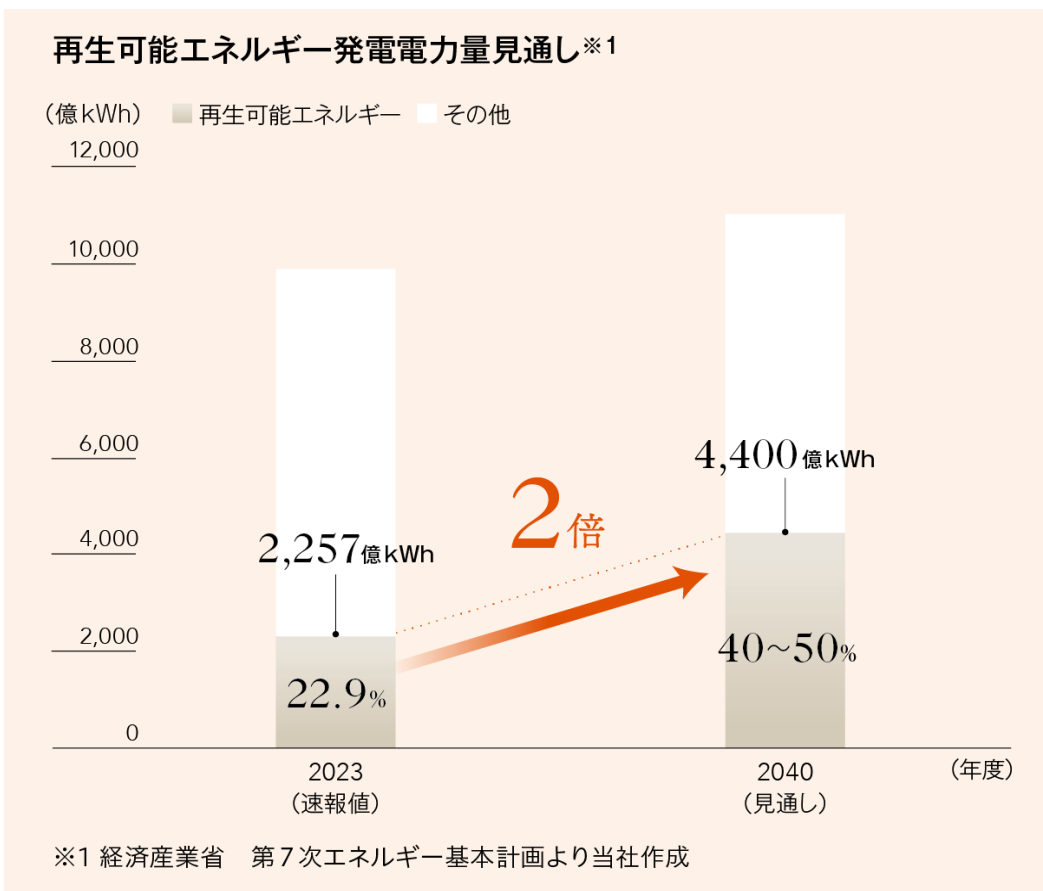


出典: 経済産業省 今後の見通しについて(2025年1月27日)より当社作成

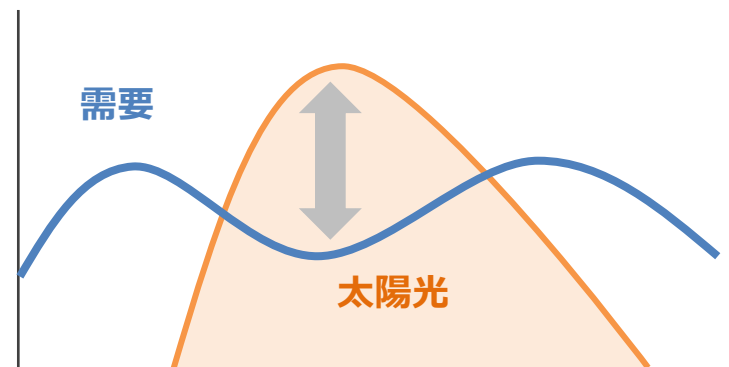
イーレックスは

- ① 蓄電池
- ② バイオマス発電
- ③ 海外事業で対応

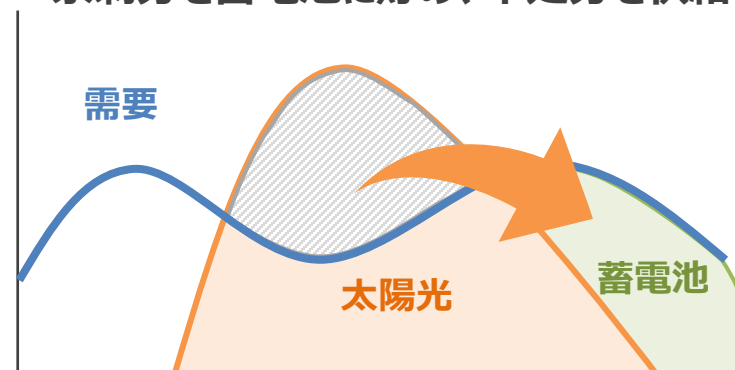
再エネ電源拡大方針で 蓄電池需要が拡大



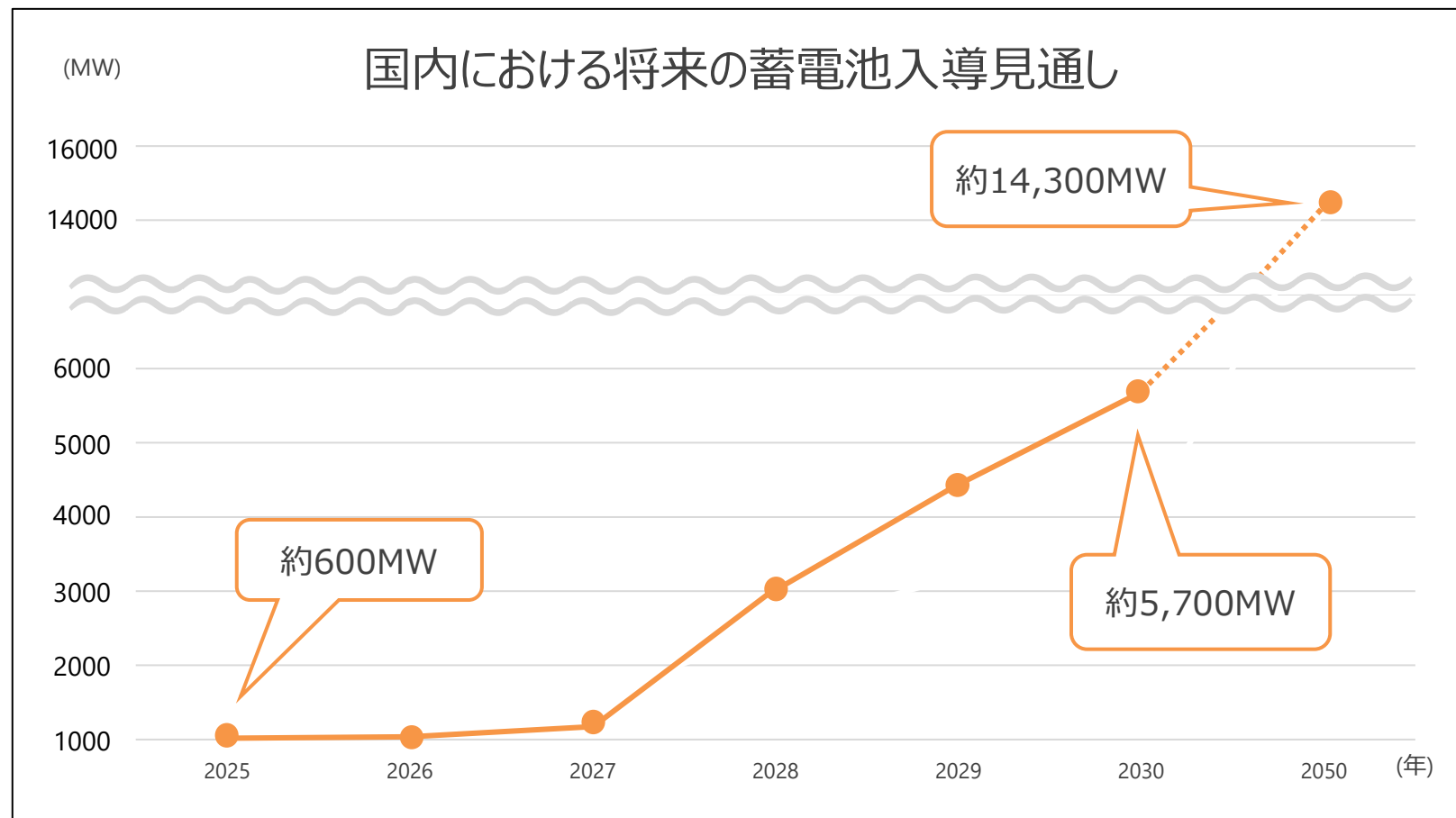
需要カーブと供給カーブに差異があり
太陽光発電の余剰が発生



余剰分を蓄電池に貯め、不足分を供給



2050年には約14,300MWの導入量まで拡大する見通し



※シンクタンクの情報に基づき当社試算

FY28取扱電源ベース100MWを目指す

蓄電池1号機（系統用）

- ・26年4月運転開始済
- ・サムスンC&Tジャパンとの共同出資

蓄電池3号機（太陽光併設）

- ・投資決定済

■ JR東日本とのコーポレートPPA

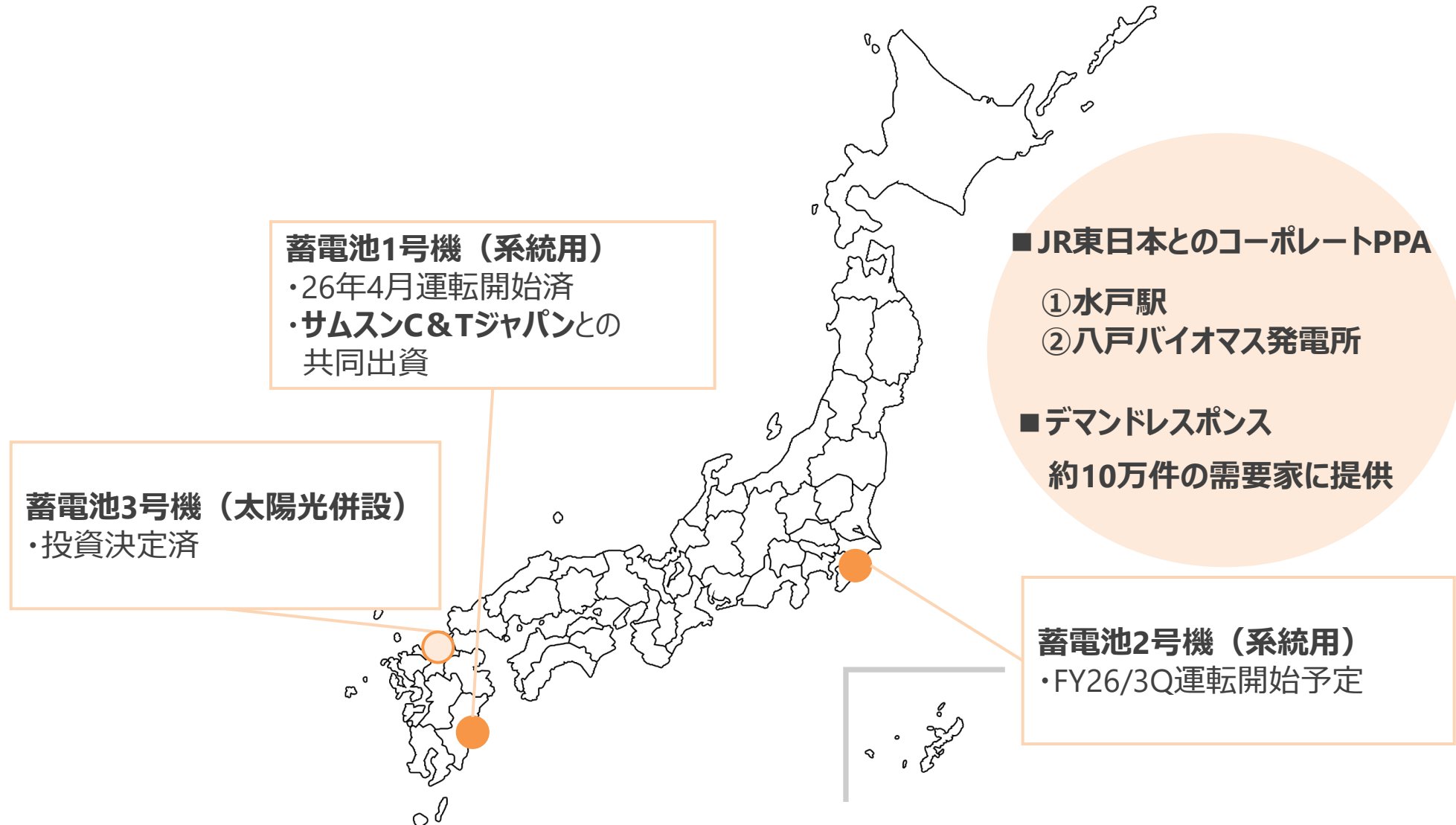
- ① 水戸駅
- ② 八戸バイオマス発電所

■ デマンドレスポンス

約10万件の需要家に提供

蓄電池2号機（系統用）

- ・FY26/3Q運転開始予定



国内：5基＋開発中1基

海外：1基＋開発中4基



バイオマス発電はデータセンターに求められる “安定性×脱炭素”を同時に提供可能

エネルギー供給の不確実性

- ・原油・LNGの調達リスク/価格変動
- ・安定電源の重要性拡大

データセンター需要拡大

- ・日本：小規模・分散型データセンター
- ・系統制約、用地制約

+

脱炭素

日本政府の データセンター 増強方針

バイオマス発電の相対価値上昇

- ・化石燃料に依存しない
- ・24時間稼働可能（安定電源）
- ・再エネ/代替電源

データセンター等に対応し、新たな需要を獲得

20年間の固定収入で事業基盤を確保 電力販売・環境価値により収益を拡張

新潟バイオマス発電所

- 長期脱炭素電源オークションにて落札
- 発電容量：112MW
- 場所：新潟県
- 燃料：木質ペレット/PKS
- 運転開始：2029年頃予定

長期脱炭素電源オークションの意義

- 安定した再エネ電源の開発
- 初期投資・固定費・運転維持費がカバーされ事業リスクを低減

- 収益構造
- ① 容量確保契約金（固定・20年）
 - ② 電力販売（市場・相対取引）
 - ③ 環境価値（24/7カーボンフリー電力）

東南アジアの旺盛な電力需要と脱炭素に対応し 発電事業と燃料事業を展開

ベトナム

バイオマス発電所：1基＋開発中2基
木質ペレット工場：1か所
石炭火力へのバイオマス混焼：試験2基



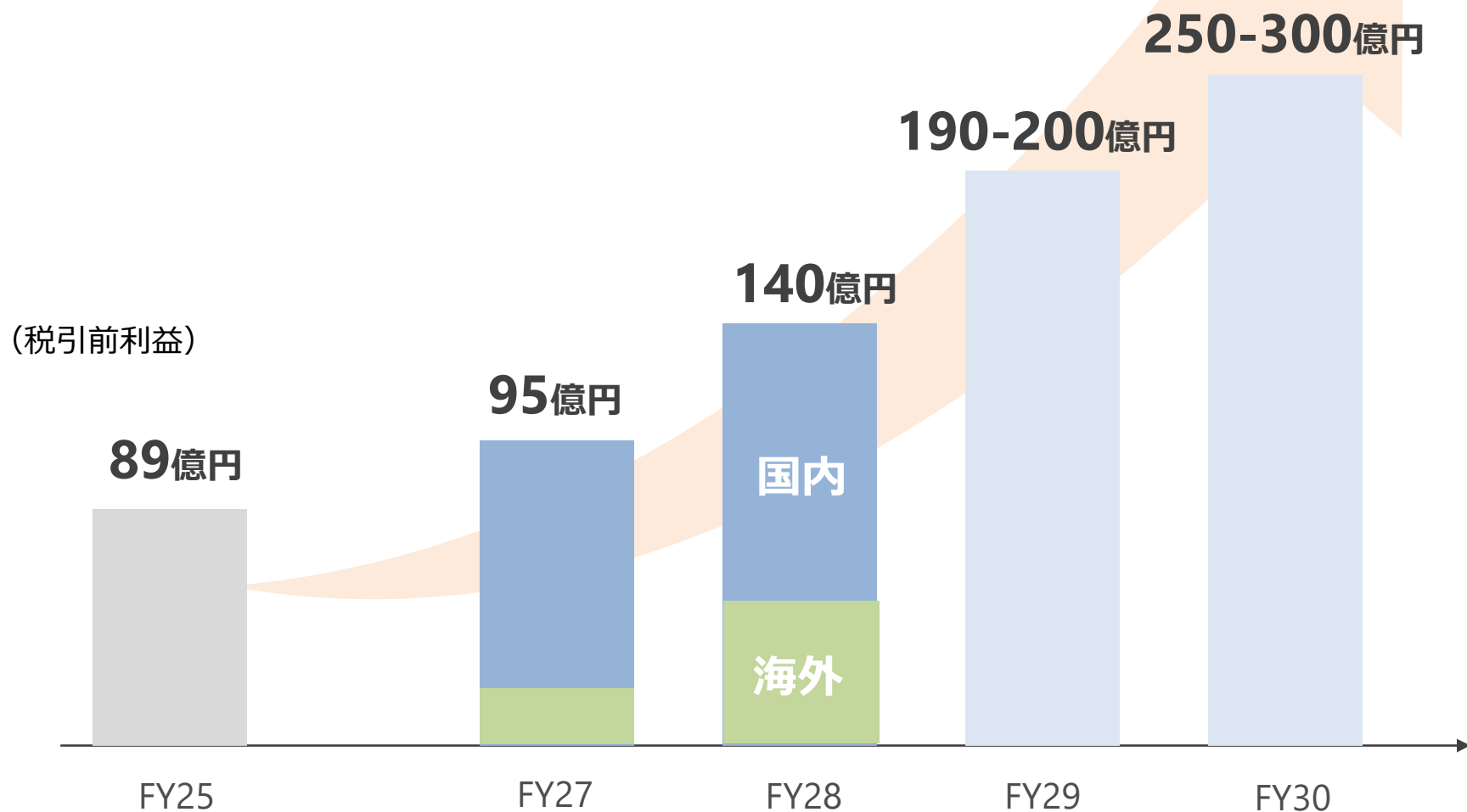
カンボジア

水力発電所：1基
バイオマス＋太陽光発電所：各1基



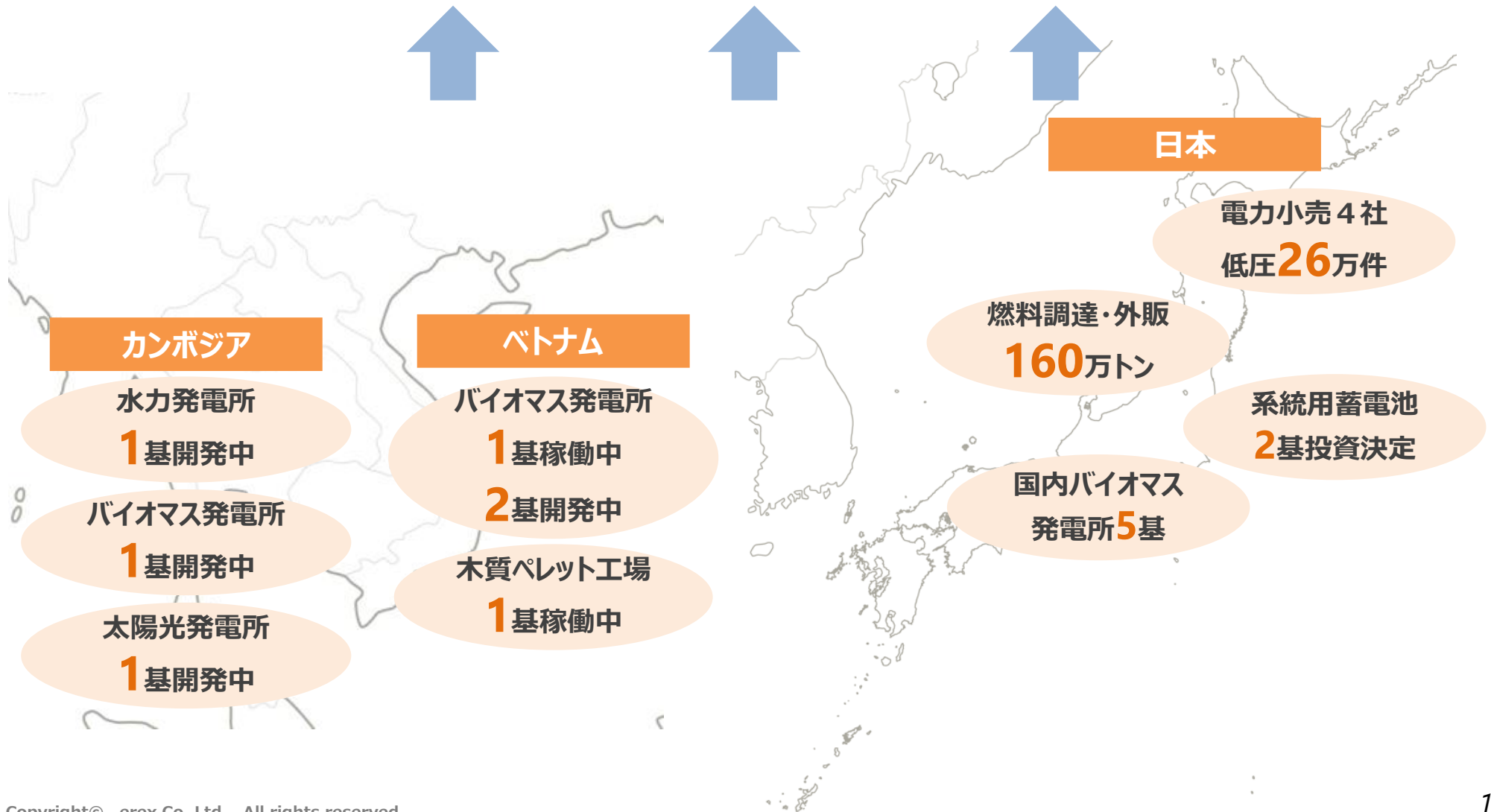


既存事業の着実な成長と 蓄電池等のアグリゲーション+AI時代の需要獲得+海外事業



Appendix

電力需要増、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現



国内：5基＋開発中1基

海外：1基＋開発中4基



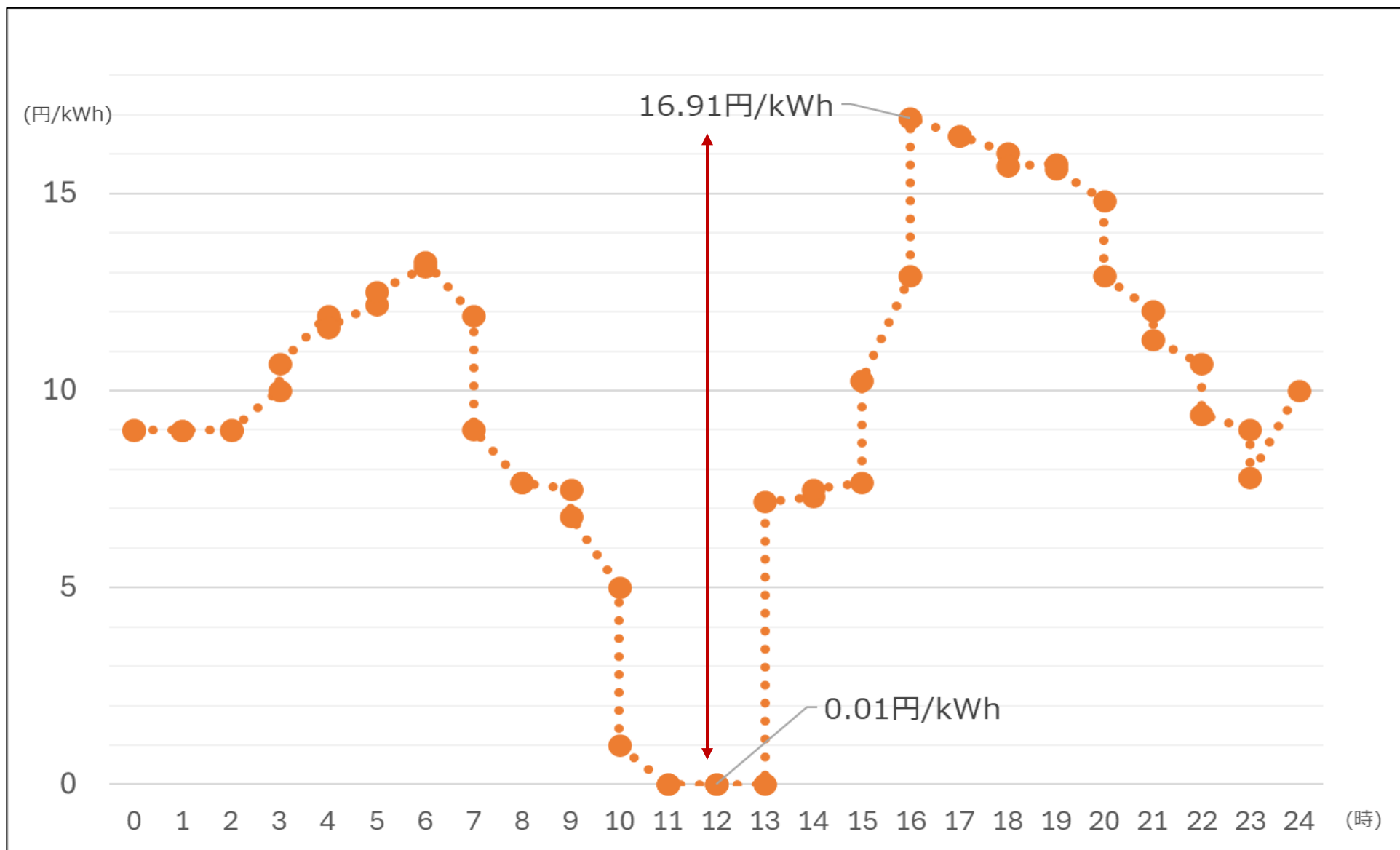
収益イメージ	出力	税引前利益
系統用蓄電池	2MW/8MWh	1億円/年
太陽光併設型蓄電池	2MW/8MWh	0.6億円/年
ベトナム新設バイオマス発電	50MW	10MUSD/年（20年平均）※クレジット収益のみ
石炭火力バイオマス混焼	55MW×2基（20%混焼）	3MUSD/年
カンボジア水力	80MW	11MUSD/年
カンボジアバイオマス・太陽光	50MW（バイオマス） + 40MW（太陽光）	8MUSD/年 ※売電収益のみ

■ 運転開始スケジュールイメージ

	2026年度	2027	2028	2029	2030
国内					
系統用蓄電池1号機（2MW/8MWh）	■				
系統用蓄電池2号機（2MW/8MWh）		■			
太陽光併設型蓄電池1号機（2MW/8MWh）			■		
新潟バイオマス発電所					■
海外					
イエンバイバイオマス発電所			■ 運転開始	■ クレジット発行開始	■
トゥエンクアンバイオマス発電所			■	■	■
石炭火力バイオマス混焼（ナズオン発電所）		■	■	■	■
石炭火力バイオマス混焼（カオガン発電所）		■	■	■	■
カンボジア水力発電		■ 試運転開始	■	■	■
カンボジアバイオマス・太陽光発電			■	■ JCM活用を検討中	■

※クレジット価格60ドル/t-CO2で当社試算、JCMクレジットは運転開始から1年後より発行開始予定

※MUSD = million USD



本資料は弊社グループの企業情報などの提供の為に作成されたものであり、国内外を問わず、弊社の発行する株式その他有価証券への勧誘を目的とするものではありません。

本資料に記載される業界、市場動向又は経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、弊社はその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではなく、また、弊社はその内容を更新する義務を負うものでもありません。

また、本資料に記載される弊社グループの計画、見通し、見積り、予測、予想その他の将来情報については、現時点における弊社の判断又は考えにすぎず、実際の弊社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外のエネルギー政策、法令、制度、市場等の動向、弊社グループの事業に必要な許認可の状況、土地や発電設備等の取得・開発の成否、天候、気候、自然環境等の変動等により、本資料記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

本資料に関するお問い合わせ先

イーレックス株式会社 IR広報部

Mail: ir.info@erex.co.jp

erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE